

2010年3月期第1四半期 決算概要

2009年7月29日

NECエレクトロニクス株式会社
代表取締役社長 山口 純史

<http://www.necel.com/ir/ja/>

I. 2010年3月期 第1四半期 業績概要

- 半導体売上高は、想定を上回る実績
- 営業損益はほぼ想定通り

II. 2010年3月期 業績見通し

- 業績予想は据置き
- 固定費削減を着実に実行し、年間での「営業黒字化」目標を維持

III. ビジネス ハイライト

- 注力事業の進捗状況
- エコソリューション事業の推進

I. 2010年3月期 第1四半期 業績概要

II. 2010年3月期 業績見通し

III. ビジネス ハイライト

第1四半期 業績の概要

NEC

(単位:億円)	09/3期		10/3期		
	1Q, 6/30	4Q, 3/31	1Q, 6/30		
	実績	実績	実績	前年同期比	前四半期比
売 上 高	1,663	855	1,020	△643	+164
半 導 体 売 上	1,592	807	980	△611	+173
営 業 損 益	17	△533	△209	△226	+324
税 前 損 益	3	△692	△208	△211	+484
当 期 純 損 益 (当社株主に帰属)	△13	△608	△207	△194	+401

為替レート前提

1US\$ =	103円	91円	98円	5円高	7円安
1ユーロ =	160円	120円	130円	30円高	10円安

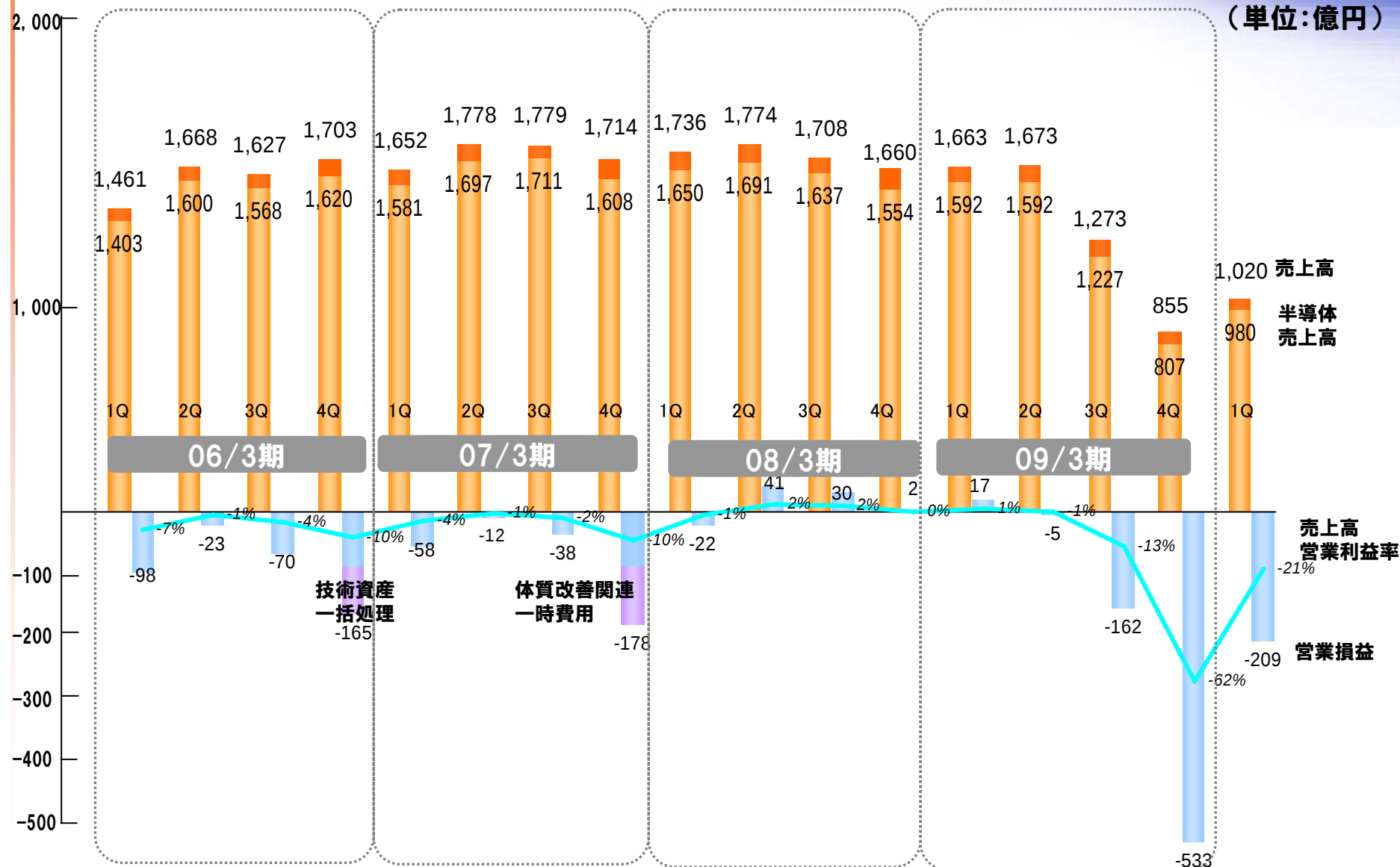
注1:当社は米国会計基準を採用しておりますが、「営業損益」は売上高から売上原価、研究開発費、販売費および一般管理費を差し引いたものです

注2:「当期純損益(当社株主に帰属)」は、2009年3月期までの「当期純損益」と同じ内容です(米国会計基準の変更によるもの)

四半期別業績推移

NEC

(単位: 億円)

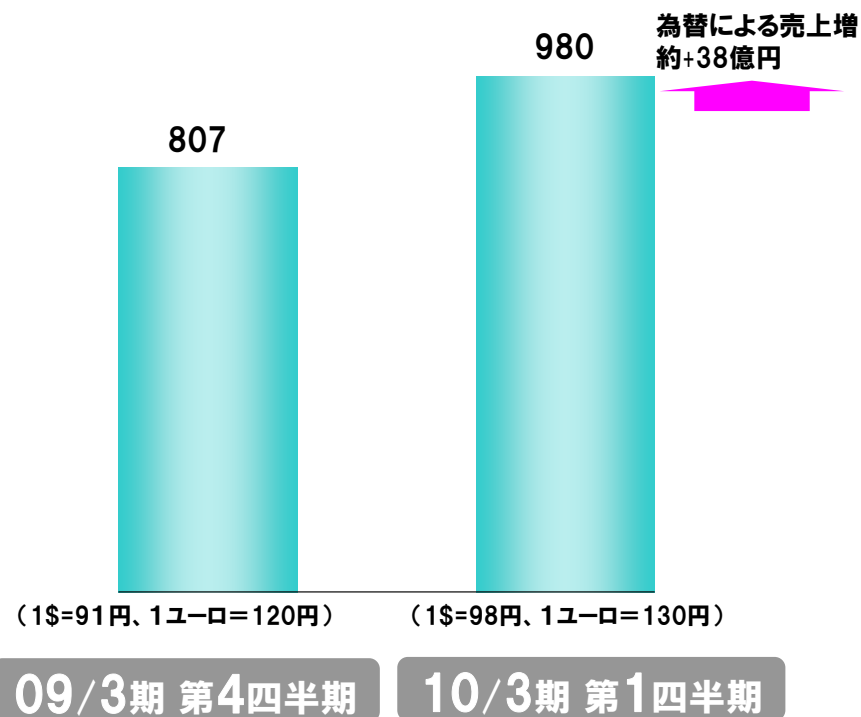


注: 当社は米国会計基準を採用しておりますが、「営業損失」は売上高から売上原価、研究開発費、販売費および一般管理費を差し引いたものです。

第1四半期(4-6月期) 半導体売上高(前四半期比) NEC

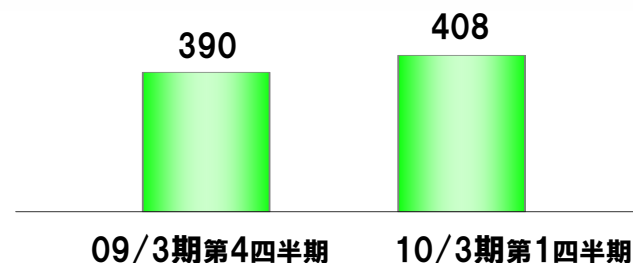
(単位:億円)

QoQ +21%



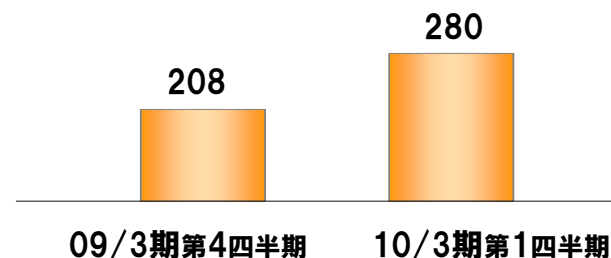
SoC +5%

・携帯電話向けカメラLSI
やEMMA増収



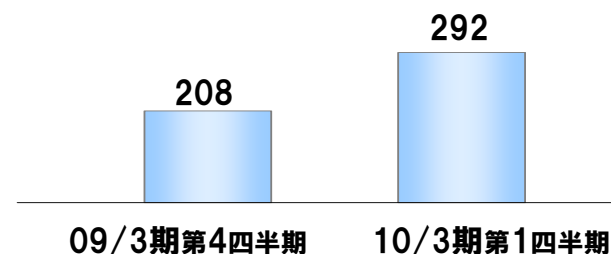
MCU +34%

・自動車向け、汎用ともに
大幅増収



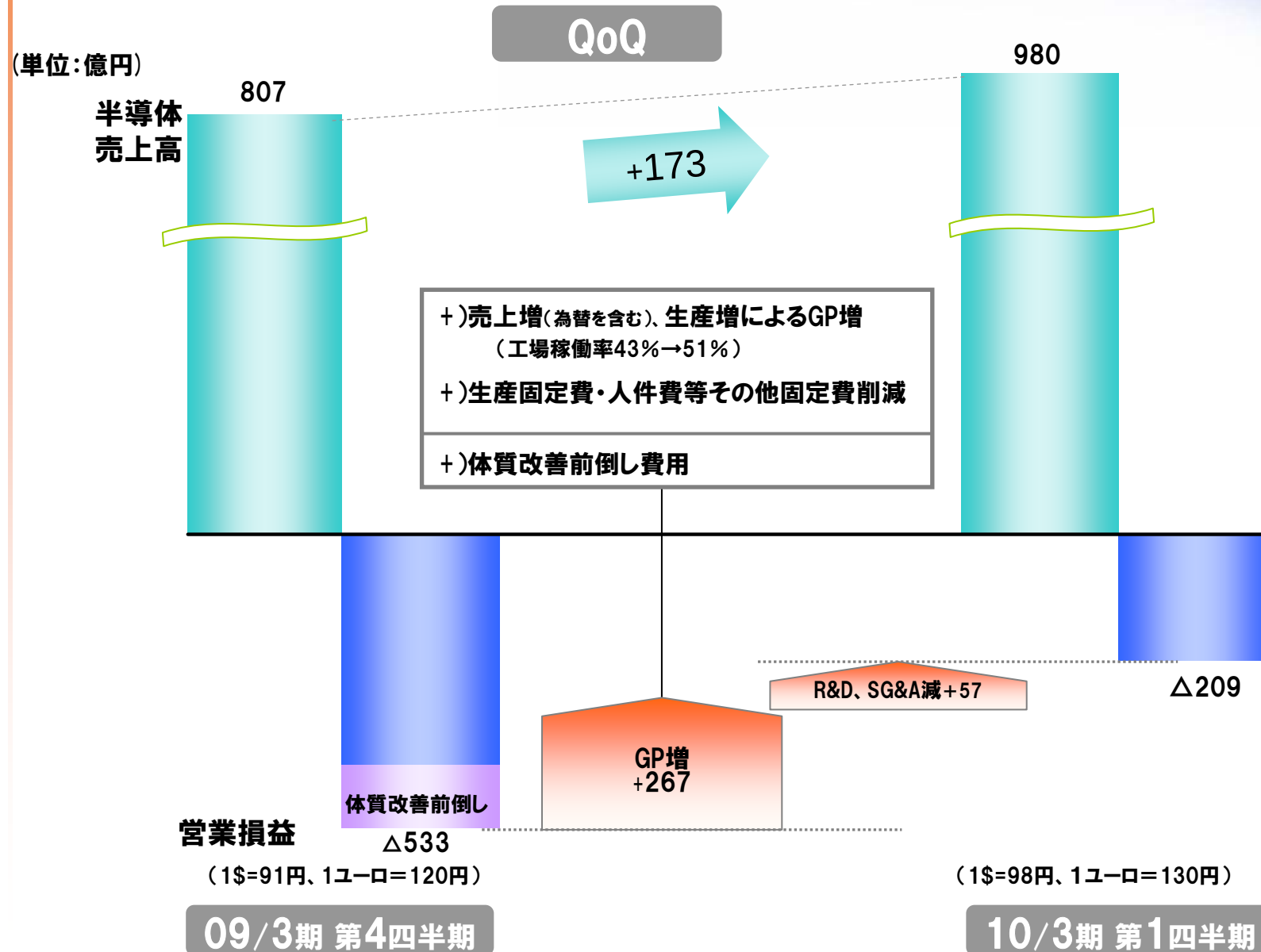
個別半導体+40%

・全般的に大幅増収



第1四半期 営業損益の主な増減要因

NEC



バランスシート

NEC

(単位:億円)		08/6	09/3	09/6
	現金および現金同等物	1,590	1,013	795
	受取手形および売掛金	995	525	660
	たな卸資産	795	632	584
	有形固定資産	2,539	2,421	2,417
	その他の資産	293	235	262
総資産		6,212	4,825	4,718
	支払手形および買掛金	1,060	788	720
	社債および借入金	1,173	1,169	1,360
	その他の負債	1,629	1,547	1,514
負債		3,863	3,503	3,594
株主資本		2,301	1,281	1,083
非支配持分		48	41	40
負債および純資産合計		6,212	4,825	4,718
D/Eレシオ(グロス)		0.51倍	0.91倍	1.26倍
株主資本比率		37%	27%	23%

キャッシュ・フロー

NEC

(単位：億円)	09/3期			10/3期
	1Q	4Q	年度計	1Q
営業活動による キャッシュ・フロー	42	△363	△69	△247
投資活動による キャッシュ・フロー	△109	△187	△493	△174
フリー・ キャッシュ・フロー	△67	△550	△562	△421
財務活動による キャッシュ・フロー	△15	△6	△43	+194

I. 2010年3月期 第1四半期 業績概要

II. 2010年3月期 業績見通し

III. ビジネス ハイライト

10/3期 業績予想

NEC

期初予想から変更なし。引き続き年間での営業黒字化を目指す

(単位：億円)

	10/3期					
	上期		下期		通期	
	予想	前年同期比	予想	前年同期比	予想	前期比
売上高	2,150	△1,186	2,650	+521	4,800	△665 △12.2%
半導体売上	2,050	△1,134	2,550	+516	4,600	△617 △11.8%
営業損益	△250	△262	250	+946	0	+684
税前提損益	△265	△265	190	+1,083	△75	+818
当期純損益 (当社株主に帰属)	△270	△251	180	+987	△90	+736

為替レート前提

1US\$=	95円	10円高	95円	1円高	95円	6円高
1ユーロ=	125円	38円高	125円	4円高	125円	21円高

注1:当社は米国会計基準を採用しておりますが、「営業損益」は売上高から売上原価、研究開発費、販売費および一般管理費を差し引いたものです

注2:「当期純損益(当社株主に帰属)」は、2009年3月期までの「当期純損益」と同じ内容です(米国会計基準の変更によるもの)

注3:予想値は2009年7月29日現在

半導体受注高の推移

NEC

受注（3ヶ月移動平均）

第1四半期の受注動向

09/3期上期受注高平均

全般的に受注回復。
特に汎用製品や自動車
向けで強い回復。

2008年3月期

2009年3月期

2010年3月期

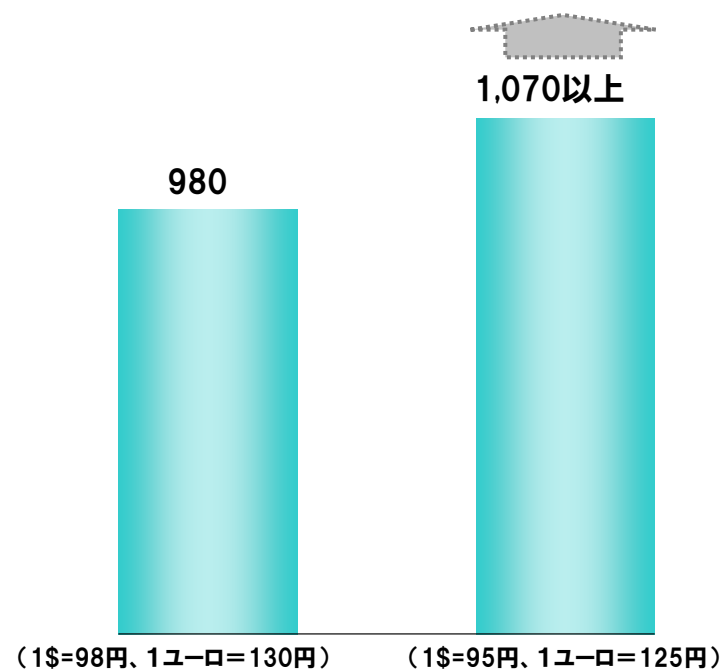
1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月 4月 5月 6月

第2四半期 売上高見通し

NEC

(単位:億円)

QoQ +9%強
(上期業績予想 2,050億円前提)

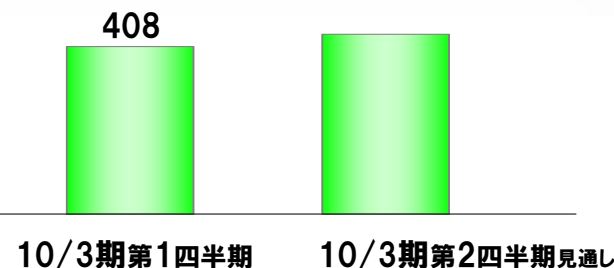


10/3期 第1四半期

10/3期 第2四半期見通し

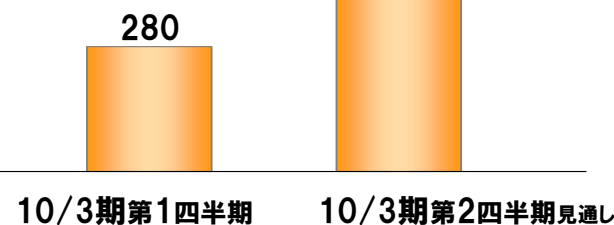
SoC 約+5%

・EMMAをはじめとするデジタルAVを中心に増収



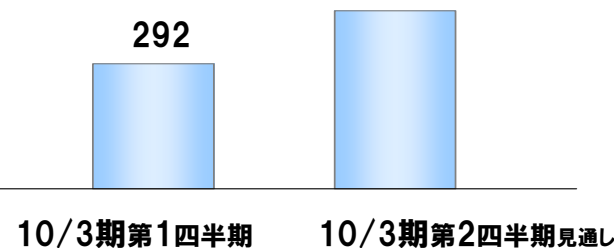
MCU 約+20%

・自動車向け・汎用とも引き続き好調



個別半導体 約+15%

・全般的に増収

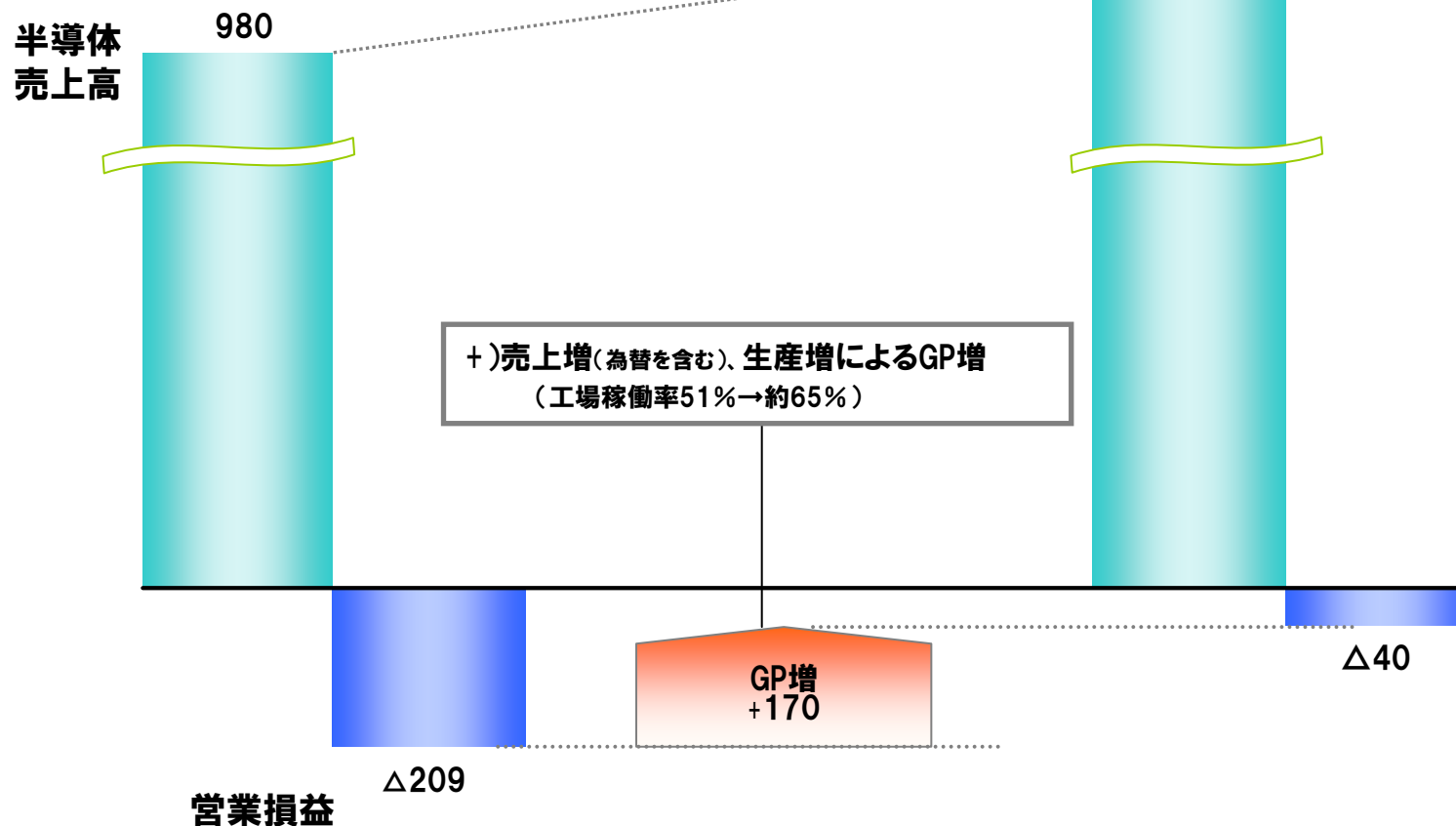


第2四半期 営業損益の見通し

NEC

(単位:億円)

QoQ



(1\$=98円、1ユーロ=130円)

10/3期 第1四半期

(1\$=95円、1ユーロ=125円)

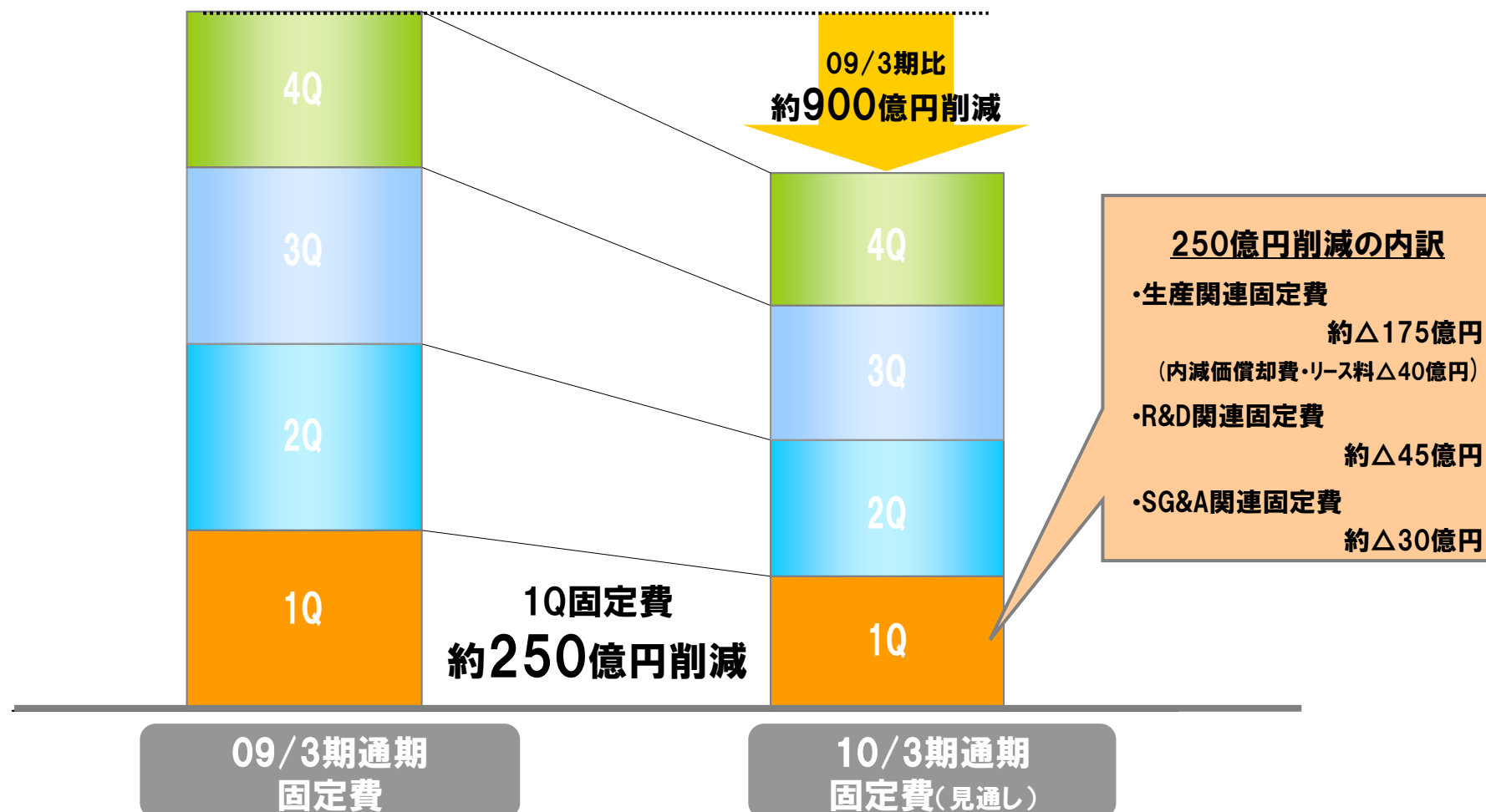
10/3期 第2四半期

注 GP: 粗利益

900億円固定費削減の進捗

NEC

1Qで前年同期比約250億円の固定費削減



I. 2010年3月期 第1四半期 業績概要

II. 2010年3月期 業績見通し

III. ビジネス ハイライト

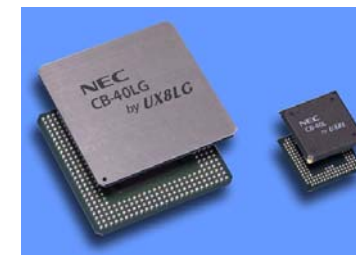
注力事業の進捗状況

NEC

最先端プロセス商談拡大

■ 40/55ナノプロセス世代で商談拡大

- 40ナノプロセス製品は上期に量産開始
- 40/55ナノプロセス製品の新規受注は拡大中



40nmCBIC

EMMA ビジネス拡大

■ EMMA (Enhanced Multi-Media Architecture) ビジネスの拡大

- 累計出荷数1億個を突破、世界15カ国・80社 に出荷
- ブルーレイ関連機器を中心に、CY08はシェアを大きく拡大



■ 採用アプリケーションの拡大

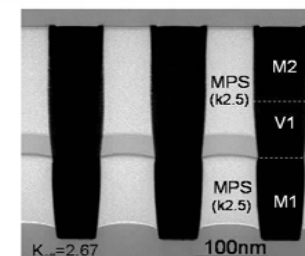
- 地上デジタル放送対応「簡易チューナー」向けに採用、本格立上げ
- PMP (Portable Media Player) /PND (Portable Navigation Device) 向けに採用、量産中



エコ事業への取り組み

■ 低電力LSIを実現する基盤技術開発

- 低電力LSIを実現するプロセス技術、デバイス技術を先端プロセスで開発



フル多孔質Low-k膜適用銅配線モジュール

■ EV(電気自動車)/HEV(ハイブリッドカー)向けソリューションを強化

- 自動車市場は、ハイブリッドカーを中心に回復基調
- グローバルに急成長が見込まれるEV/HEV市場に向けて、マイコン・パワー半導体を中心に戦略的ソリューションを提供

当社のEV/HEV向け事業領域



エコソリューションの推進

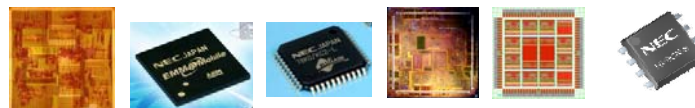
NEC

新コンセプト “エコソリューション”

デバイスでエコ

低電力、小型なエコLSI製品の提供

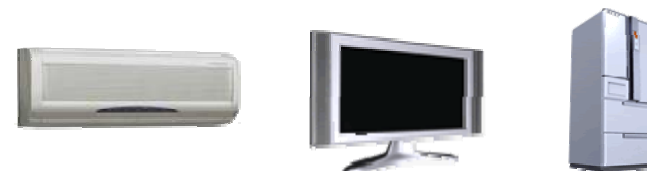
＜基盤技術例＞設計技術、プロセス、高耐圧、eDRAM



システムでエコ

セット／システムのエネルギー効率革新をもたらすソリューションの提供

＜応用技術例＞インバータ、スタンバイ、ネットワーク



エコ社会に向けて

新社会のシステムの早期構築、普及促進に貢献する半導体ソリューションの提供

＜対象分野例＞エコカー、新エネルギー分野等



エコカー



スマートグリッド



LED照明

NEC

NEC Electronics Corporation

（将来予測に関する注意）

本資料に記載されている当社および連結子会社（以下NECエレクトロニクスと総称します。）の計画、戦略および業績見通しは、将来の予測であって、リスクや不確定な要因を含んでおります。実際の業績等は、様々な要因により、これら見通し等とは大きく異なる結果となりうることをあらかじめご承知願います。実際の業績等に影響を与えうる重要な要因としては、（１）NECエレクトロニクスの事業領域を取り巻く日本、北米、アジア、欧州等の経済情勢、（２）市場におけるNECエレクトロニクスの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、（３）激しい競争にさらされた市場においてNECエレクトロニクスが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを供給し続けていくことができる能力、（４）為替レート（特に米ドルと円との為替レート）の変動等がありますが、これら以外にも様々な要因がありえます。また、世界経済の悪化、世界の金融情勢の悪化、国内外の株式市場の低迷等により、実際の業績等が当初の見通しと異なる結果となる可能性もあります。

参考：分野別 半導体売上高

NEC

(単位:億円)

